たまがわ5 ひろば

ミニコミ紙
平成4年3月20日

第　25　号　平成4年　3月20日
発行責任者　鈴　木　武　一
事　務　局　用　賀　出　張　所　TEL 3700－9120

創る　老後の幸福

上用賀五丁目　斎藤清一郎

老後の幸福は、自分を取り巻く家庭環境や、社会情勢によって、色々と異なる事と思うが、然し、生きるそうして終えるという事から考えると、先ず、自分に合った趣味を掴み取って余暇を楽しんでいく事にあるのではないかと思う。

定年が近づくと、誰しも今後をどう生きて行くか、何を楽しみに生きて行こうかと常に考える様になる。そうして老後を迎える。

私も、予てから、仏像に魅力があって、死ぬまでには是非彫ってみたいと願っていた。十年前、区のお知らせで仏像彫刻教室開設を知り、通い始めて好きな道を難しい〳〵と言い乍ら、余暇を仏像彫刻に一心してどうやら仏性への立体表現が判って来た。今は同僚と語り乍ら時には香を焚き、仏への道を歩いている。

動く　路地裏の出来事

用賀二丁目　桜町スポーツクラブ会長　西尾満洲雄

日曜の朝、路地裏がにぎやかになってくる。

「それいくぞ　右ッ　左ッナイスキック」「ボール・ストライク」親子の元気で楽しそうな声。サッカー、野球の試合に行く前のお父さんコーチによる特訓風景である。

今年の秋から月一回実施予定の、学校週五日制の目的の中にある「親と子が共有出来る時間を増やす」事を実現させるために一番身近にあるのがスポーツ活動ではないかと思います。

スポーツを通じて、健康の増進と、親子のふれあいを深めることが出来ればと願っています。

（取材　高橋澄）

うらら　余暇を楽しむ

遊ぶ　水ぬるむ多摩川へ

建設省河川局京浜事務所の技官の方のお話

「今や、多摩川で見られる野鳥の数よりも　休日に行楽に来る人間さまの数の方が多いのですよ。」

地の利が良いのか、兵庫島を中心に、たいへんな人出です。世田谷区立の兵庫島親水公園の整備も進み親子で水遊びを楽しむ風景があちこちに見られます。

「ぼく　パパといっしょでよかったね。」「うんでも二子の子どもは毎日来れていいなあ……。」

子どもの笑顔と華やいだ声を聞きに春は多摩川へ。

（池田）

思う　この頃、考えること

用賀四丁目　高橋　通

敗戦時、十七才だった。荒廃した国土の復興の道程を思うとき、現代を生きる私ども旧人類には経済大国が信じられず、今も物を大切に使っている。「衣食足りて礼節を知る」と教えられて育って来たが、現在はどうだろうか。道徳感情も礼儀も地に堕ちて了ったのだろうか。民主主義は日本に育っていない。ただ自由を勝手主義に置き換えているに過ぎないと識者は指摘している。

富を得たことによって衰退した国は多い。歴史を知り己を知るための努力を続けたいものである。

描く　趣味として描く

瀬田四丁目　鯉沼美武子

私は小学生の頃から図画の時間が楽しかった。

子育ても済み家事の合間に絵を描いていました。

還暦の頃より正式に絵の勉強を始め、今は　写生旅行にも参加して楽しんでいます。空気のよい所で童謡でも口ずさみながら描いていると、年を忘れます。我が家の庭の四季も画材になっています。

うれしいことに老人クラブの文化祭や区の美術展にも出品して友人達にも見てもらえる様になりました。

このように余暇を楽しめるのは有難いことと思っております。

（取材　大坪）

春はうららのんき節

鈴木　武一

花の四月が新年度
　いつから誰がきめたのか
みんな信じて疑わず
　彼岸ざくらが散りはじめ
吉野ざくらが俺の番
　とも何とも言わぬのに
マスコミ勝手に取り上げて
　さくら前線どこそこと
頼みもせぬに書きたてて
　よむ人みなに気をもたせ
何でもないのにソワソワと
　道ゆく人もウキウキと
何が何でも新年度
　アレも直してコレ改正
人事異動で様がわり
　サア　気をとり直し
一、二、三
　キミ僕わたし坊や近こっ
父さん母さん先頭に
　ついて行きます新学期
萌える草木に鳴く小鳥
　声もかすんで紋しろ蝶
春はウララの本番だ
　胸に小さい造花つけて
おどるステップ　パートナー
　そっと伝わる良いかほり
グッと匂ひを抱きしめて
　細目うつむき帰り途
ああ初恋は夢の中
　アレから幾年幾星霜
人生街道まっしぐら
　戦争いったり復員ったり
何時しか歳もすぎの遠
　白髪の乱れが気になって
古い手紙を読みかへす
　憶い出たどる後からは
ぼんやり昇る十六夜の
　月がニヤリと笑ってた
のんき節だい
　ヨウイヤサー

郷土紹介 行善寺八景

今は往来も少なくなりましたが、玉川通り瀬田交差点交番脇の旧道も、かつて賑わいを見せた大山道です。

この道を少し二子玉川の方に進むと高台に行善寺があります。浄土宗のお寺で正式の名称は獅子山西光院行善寺。草創は今から四百有余年前の永禄年代、法蓮社印誉上人伝光和尚により開山され、開基は長崎伊予守重光と言われています。長崎氏が瀬田に土着した時小田原にあった同氏の菩提所を当地に移した様です。寺宝としての楠薬師佛は明治十九年、同寺の火災により惜しくも焼失しています。

その後、木造の本堂等が再建されましたが昭和三十九年新たに鉄筋コンクリート造りに建て替えられました。

行善寺境内からは多摩川の流れと共に遠く丹沢連山富士山等が見渡せ、江戸時代末、後の十二代将軍徳川家慶も来遊しています。

その佳景は近江八景にも擬（なぞら）えて行善寺八景として……

瀬田の黄稲　岡本の紅葉
大蔵の夜雨　登戸の宿雁
富士の晴雪　川辺の夕畑
吉沢の暁月　二子の漁舟

等と言われていました。

そして、昭和五十九年〝瀬田の行善寺と行善寺坂〟は、世田谷区民選定の〝ふるさと世田谷百景〟の一つに選ばれております。

（飯田）

趣味の広場

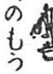
盆栽と陶芸

上用賀三丁目　高橋　清

私は盆栽作りと陶芸を趣味にしています。永いこと農業に携わって来たこともあって、草木や土に特別関心があるのかも知れません。

毎年、五月と十一月の二回、用賀の真福寺で、用賀鉢の木愛好会の盆栽展示会が行われている事をご存知の方は大勢おられると思います。この会は、昭和三十八年に発足しましたので、今年で三十年になります。ベテランから初心者まで三十数人の会員で月に一回集まって勉強会を行っています。又、初心者は先輩の盆栽をお手本にして勉強し、ベテランの方はより風格のある盆栽に育てようと努力しています。

最近は女性会員を中心に、山草も大変盛んになってきました。



この会のもう一つの特徴は、会員の有志で陶芸をしていることです。陶芸もまた古く、二十数年続いています。作品は般若（はんにゃ）の面、香炉、壷、花瓶の茶碗、食器、植木鉢など、多種多様です。

焼き物で一番楽しみなのは、窯出し（かまだし）の時です。自分の作品が想像していたような色が出た時には何とも言えない快感をあたえてくれます。

盆栽も陶芸も、大変奥の深い、共通したものがあり、やりがいのある趣味だと思っています。

文芸

学生のランニング高さかけ声きこえきて
朝の床はね起きる

瀬田三丁目　松岡　妙子

野鳥園のそうじ

二子玉川小学校六年三組　杉浦はづき

帰る時に野鳥園をのぞきました。池の水はにごり、はっぱや松の葉がういています。私は思わずため息をついてしまいました。

そこに飯泉さんと植田さんが来ました。「はづき　どうしたの。」と聞かれたから、「野鳥園の水がにごってきたないなぁ、と思ってたんだ。」と答えました。すると飯泉さんがドアをあけて、「今日の当番の人、やってない。」と言いました。私は「少しやっていかない。鳥もきれいな方が、たくさんくると思うよ。」と二人をさそいながら野鳥園に入っていきました。

池のせんを抜いてブラシでこすり、石と石の間にあったゴミもとります。きれいになったので水を入れます。えさもあげました。

野鳥園のそうじは大変だったけど三人で楽しくできたし、きれいになったからよかったなぁと思いました。

（二子玉川小学校は愛鳥モデル校（環境庁指定）です。野鳥園は校門の脇にあります。）

トピックス

地域には陰の力となり活動し、ご尽力くださっている方々が大勢おられます。

平成三年度
「ありがとう賞」受賞者

飯田　元（はじめ）さん（玉川三丁目）

八年以上二子玉川園駅近くの多摩堤通り沿いと土手周辺（旧二子橋から新二子橋）500mの清掃活動をほぼ毎日。健康のためにと言っておられます。

大島　七郎さん（瀬田五丁目）
〃　すゞさん

六年以上早朝アルミ缶回収を行い収益金を身障者施設『泉の家』に寄附。『泉の家』の子ども達が訪れる日はお菓子を用意し交歓の時を心待ちしておられるそうです。

（柳田・久保田）

あとがき

春うらら・・・

待望の春がやって来ました。この紙面も若草色で、春を感じてみました。

毎日あくせく働く我々もその合間に何か趣味を持つ事は大切な事。いざ退職しにも……。スポーツ、書画、彫刻、盆栽など、自分なりの生きがいを求めて、一度の人生を二度三度楽しむ方法を見つけたいものです。

このミニコミ紙も九年前に創刊して二十五号になりました。楽しい紙面にして行きたいと思います。ご意見をお寄せ下さい。

（鈴木堅）

このミニコミ紙は再生紙を使っています。　　筆耕・カット　折原淳子